

— 第1回 甲賀市総合計画審議会 —
人口減少社会と本市の対応について



— 第1回 総合計画審議会 —

人口減少社会と本市の対応について

1. 人口減少の全国的傾向

2. 甲賀市の現況と将来予測

3. 人口減少による課題

4. その対策は？

— 第1回 総合計画審議会 —

人口減少社会と本市の対応について

1. 人口減少の全国的傾向

2. 甲賀市の現況と将来予測

3. 人口減少による課題

4. その対策は？

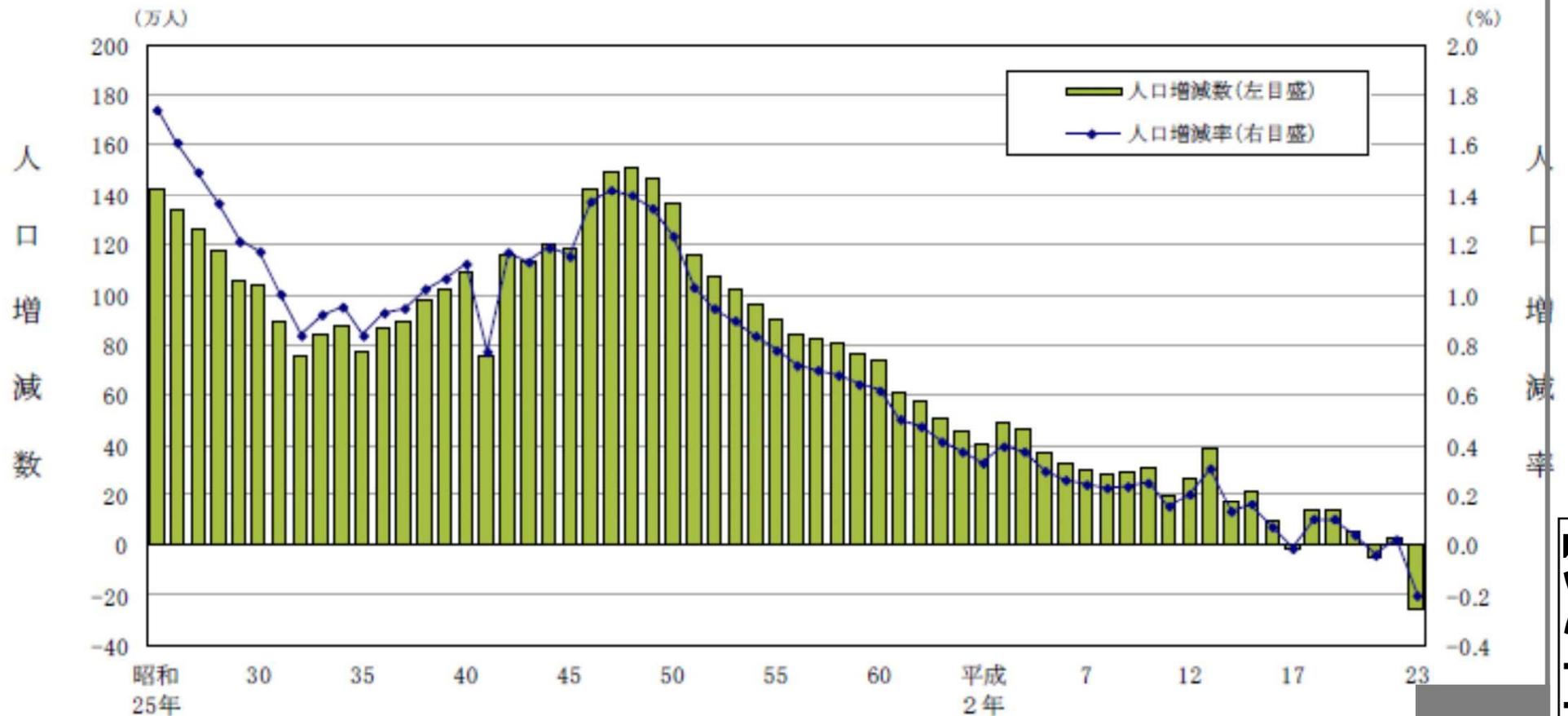


1. 人口減少の全国的傾向

人口減少社会の到来

～日本の総人口は2011年に大きく減少～

図1 総人口の人口増減数及び人口増減率の推移（昭和25年～平成23年）

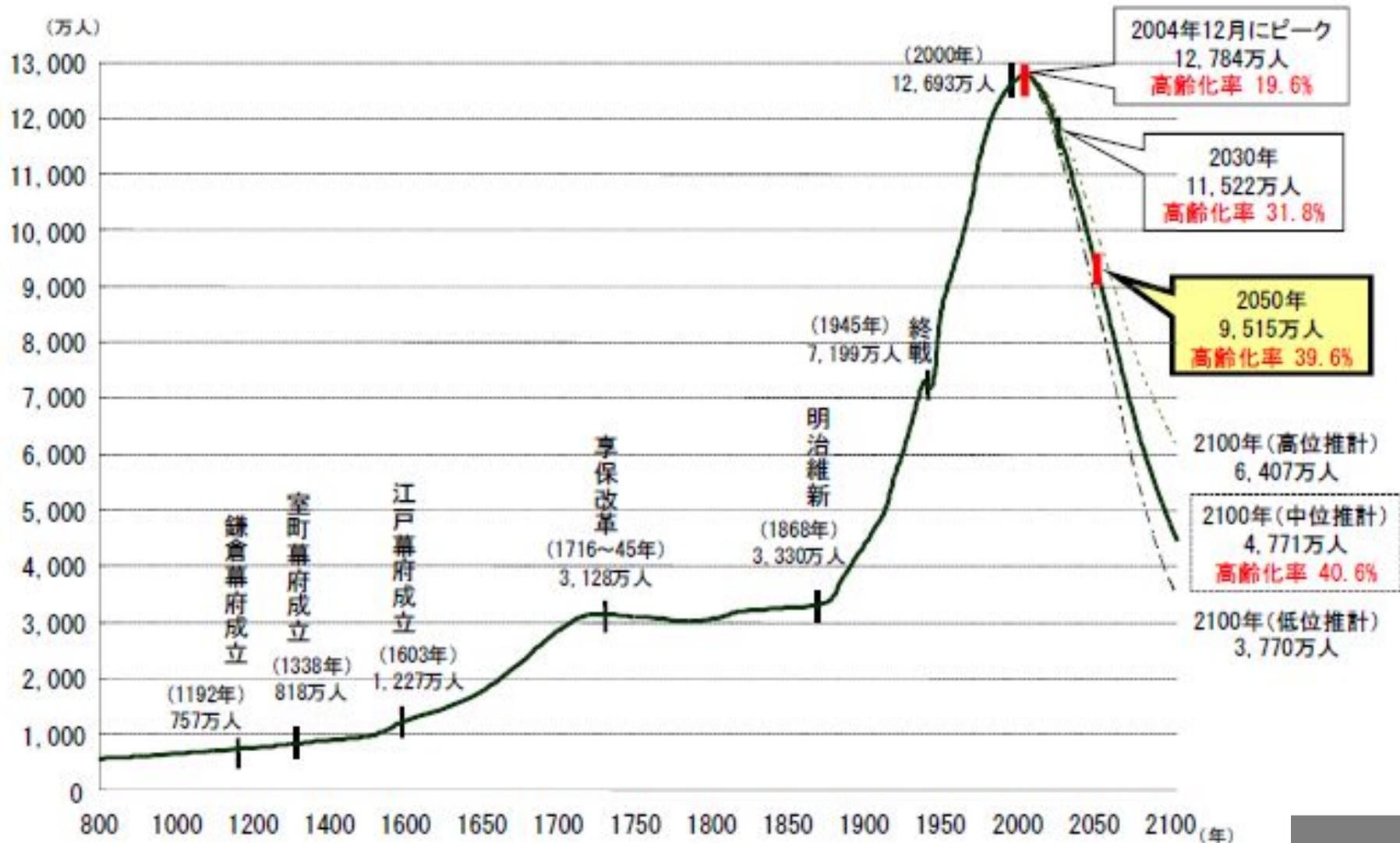


注) 人口増減率は、前年10月から当年9月までの人口増減数を前年人口(期首人口)で除したもの。



1. 人口減少の全国的傾向

千年単位で見ても・・・極めて急激な減少



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(平成18年12月推計)、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作

甲賀の国づくりプロジェクト会議

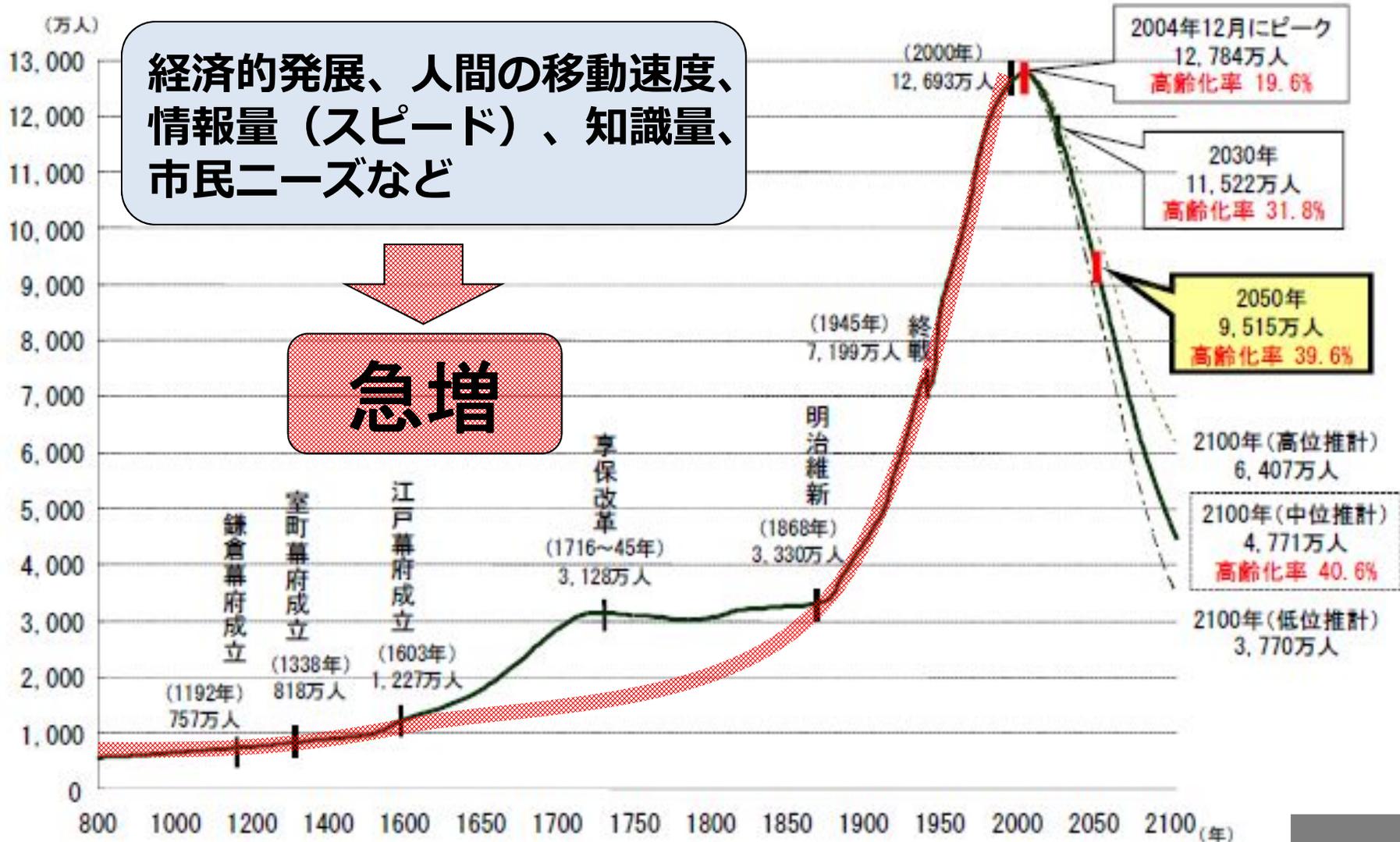
5

(出典)国土交通省 国土審議会 政策部会 長期展望委員会 中間とりまとめ(2011年2月22日)



1. 人口減少の全国的傾向

千年単位で見ても・・・極めて急激な減少



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(平成18年12月推計)、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

甲賀の国づくりプロジェクト会議



1. 人口減少の全国的傾向

人口の動きを『波』で説明



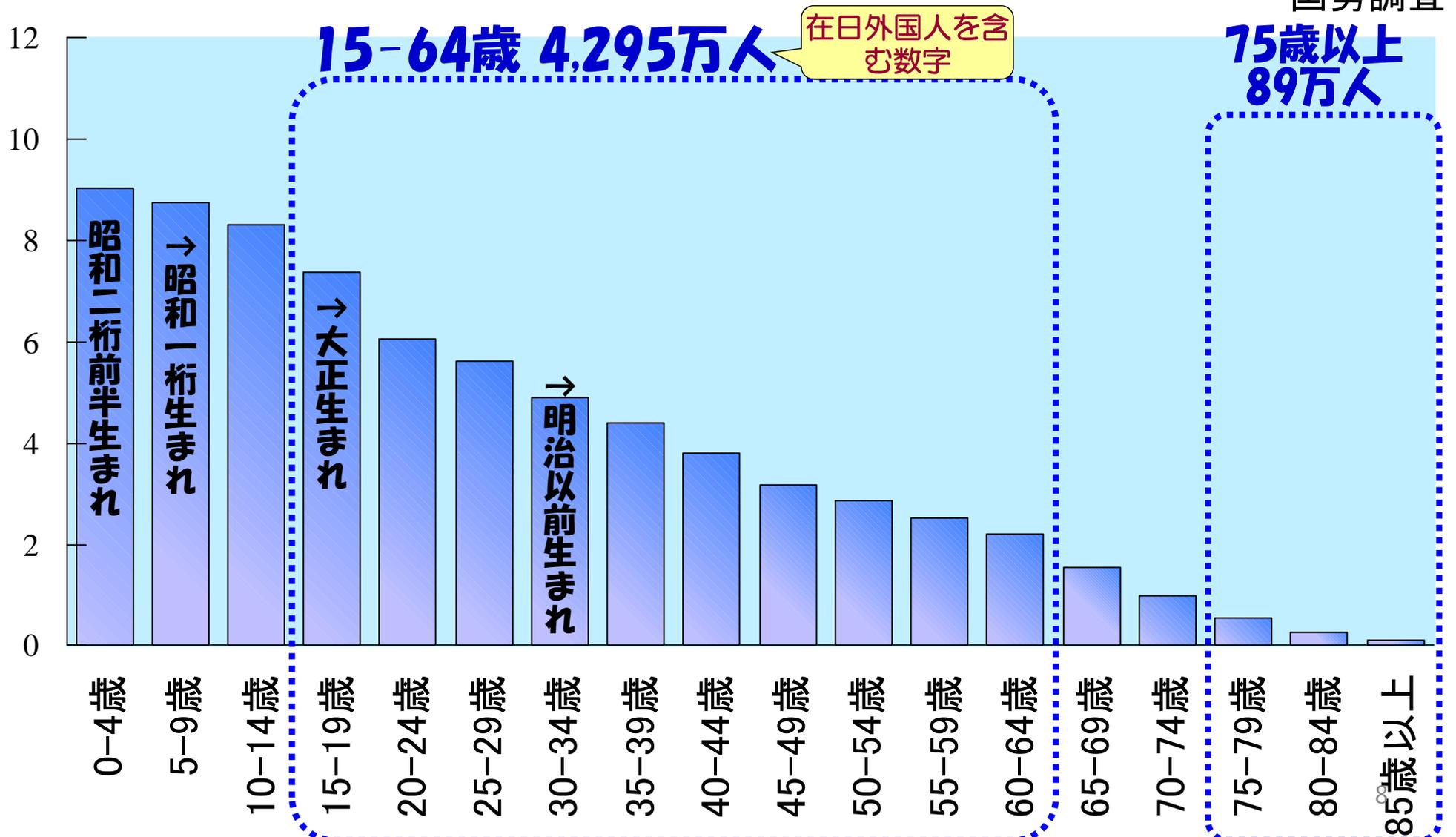
日米開戦前夜

1枚目



何歳の人口が多かったのか：1940 (S15) = 70年前

百万人



戦後復興の頃

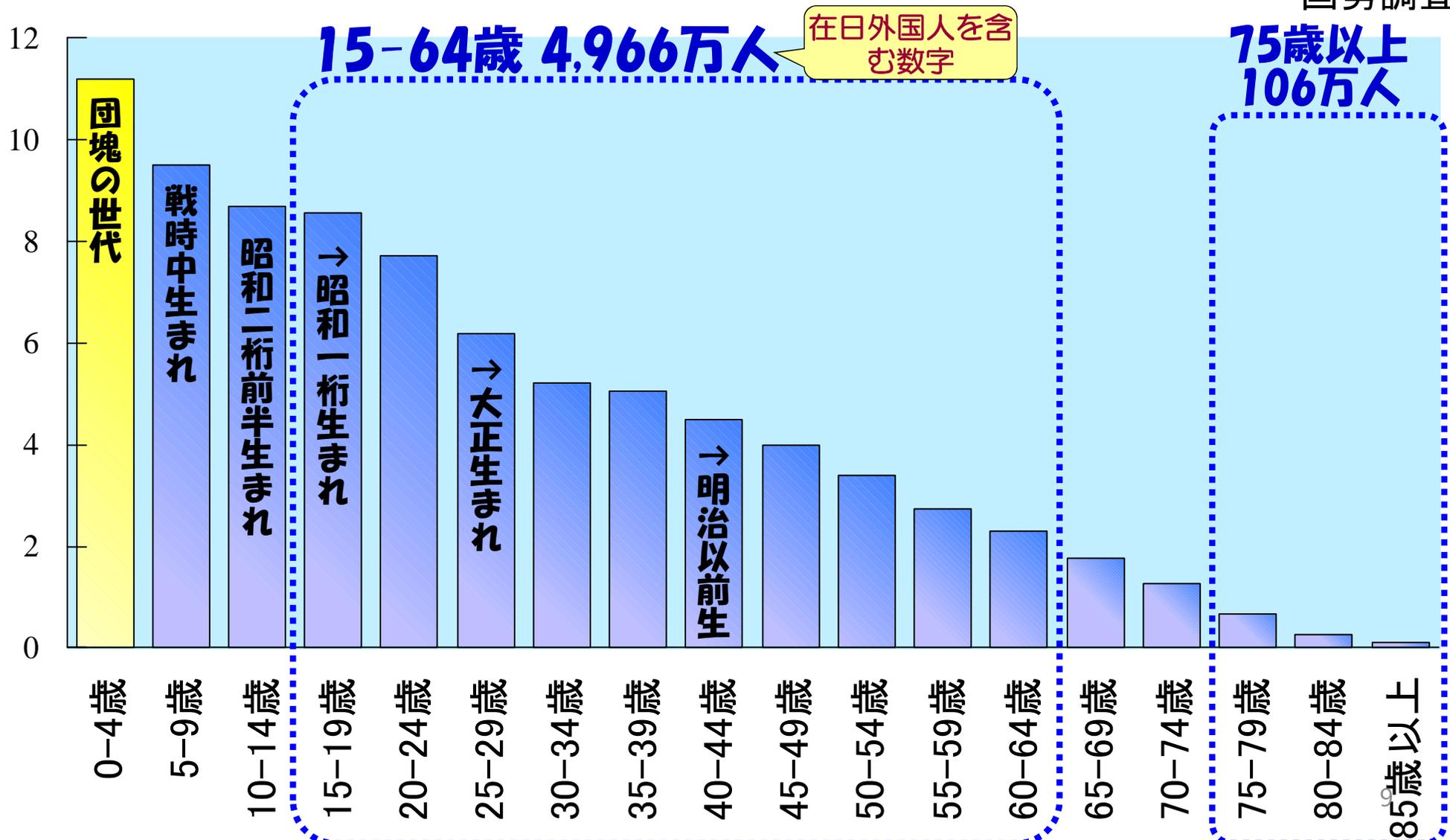
2枚目



何歳の人口が多かったのか：1950 (S25) = 60年前

百万人

国勢調査



所得倍増計画の頃

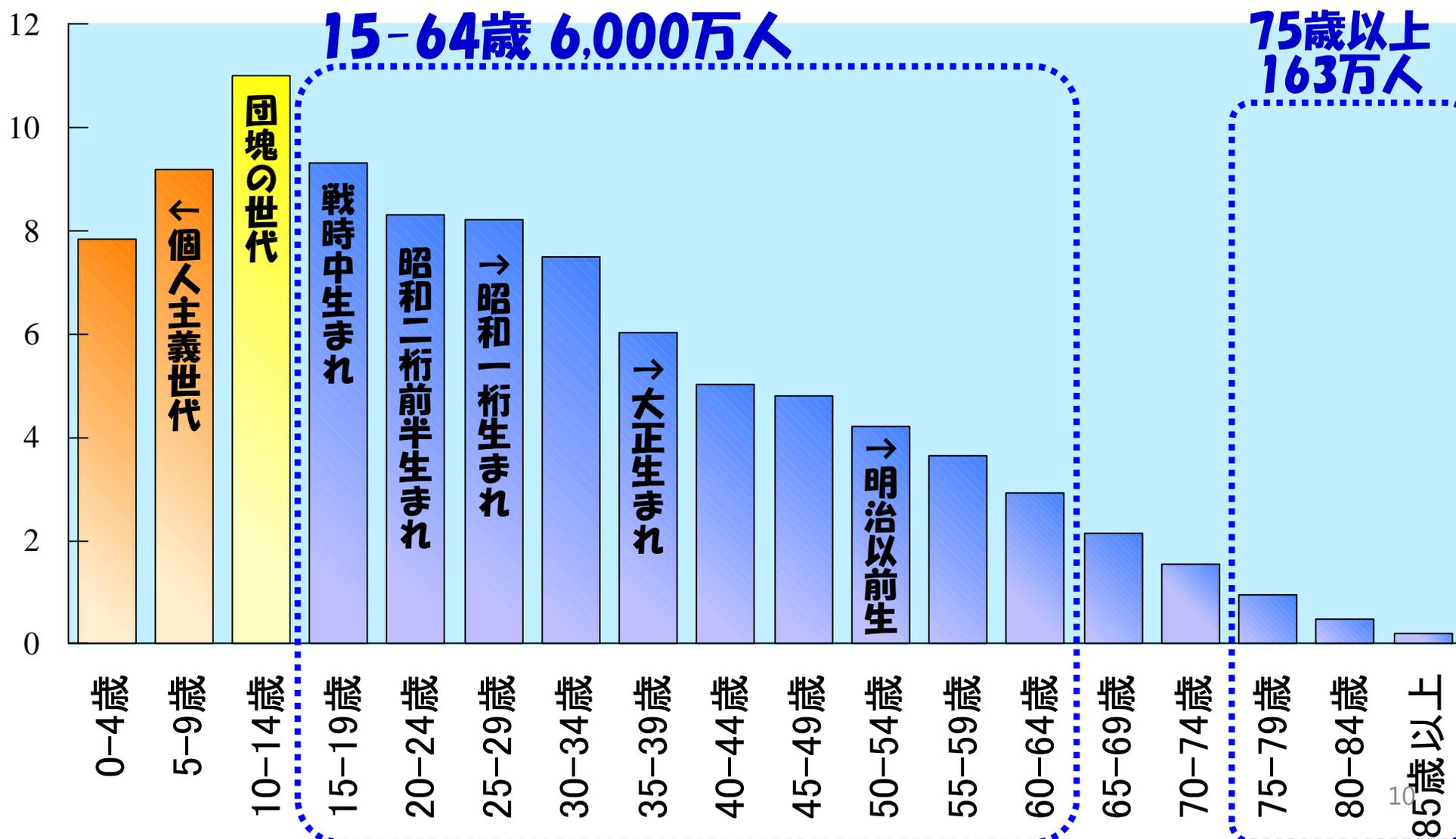
3枚目



何歳の人口が多かったのか：1960 (S35) = 50年前

百万人

国勢調査



大阪万博の頃

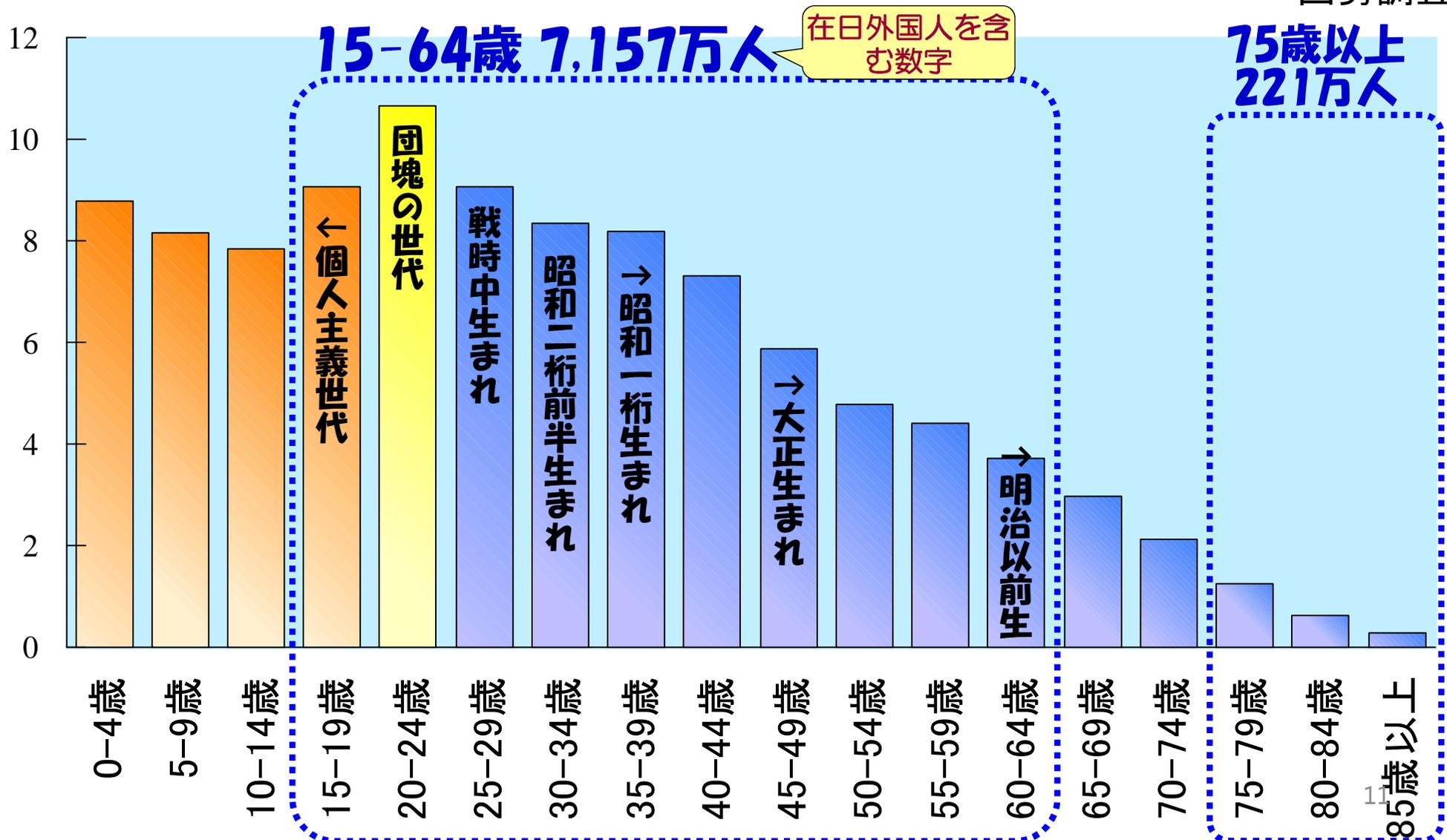
4 枚目



何歳の人口が多かったのか：1970 (S45) = 40年前

百万人

国勢調査



安定成長移行期

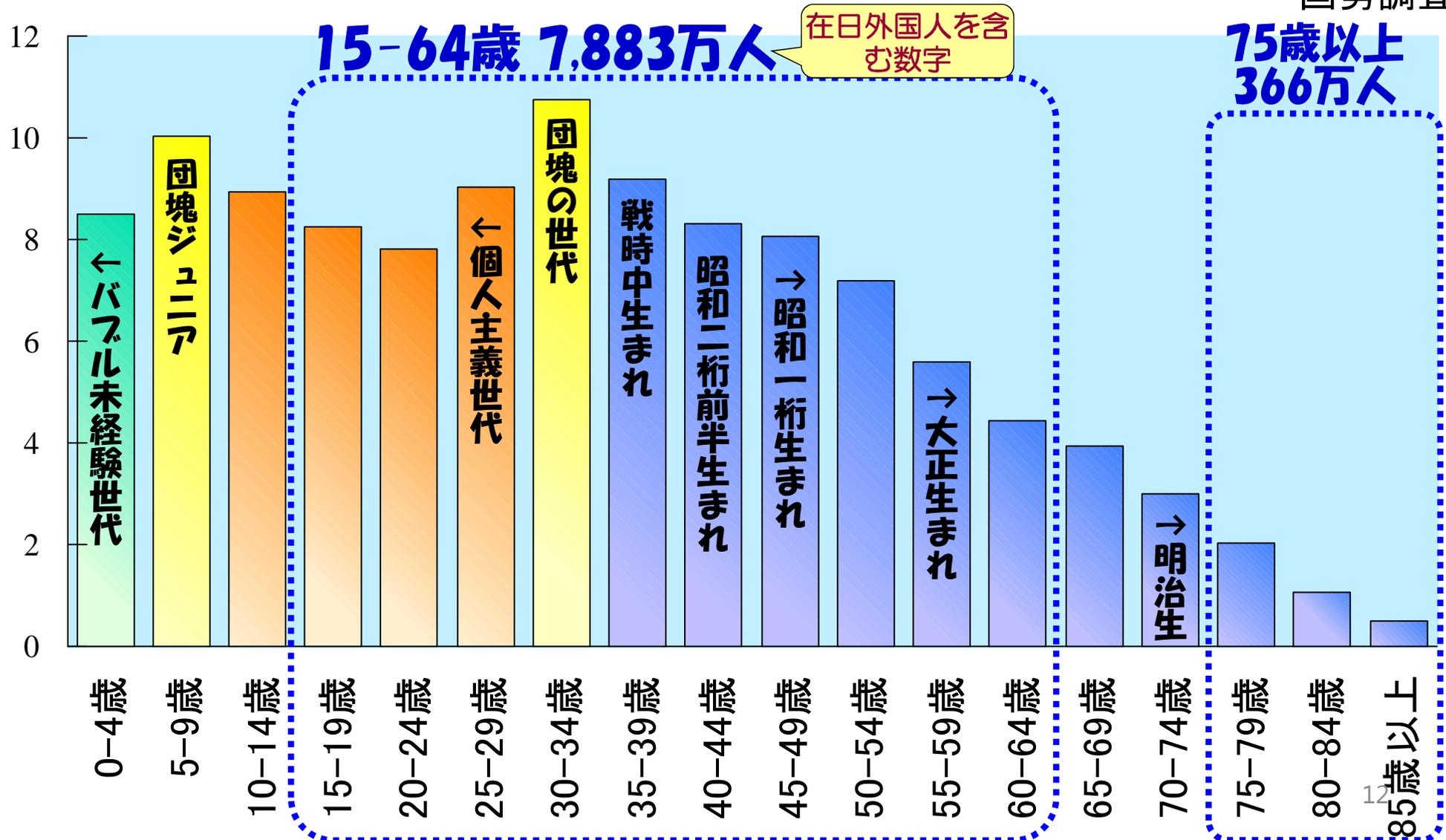
5枚目



何歳の人口が多かったのか：1980 (S55) = 30年前

百万人

国勢調査



バブル最盛期

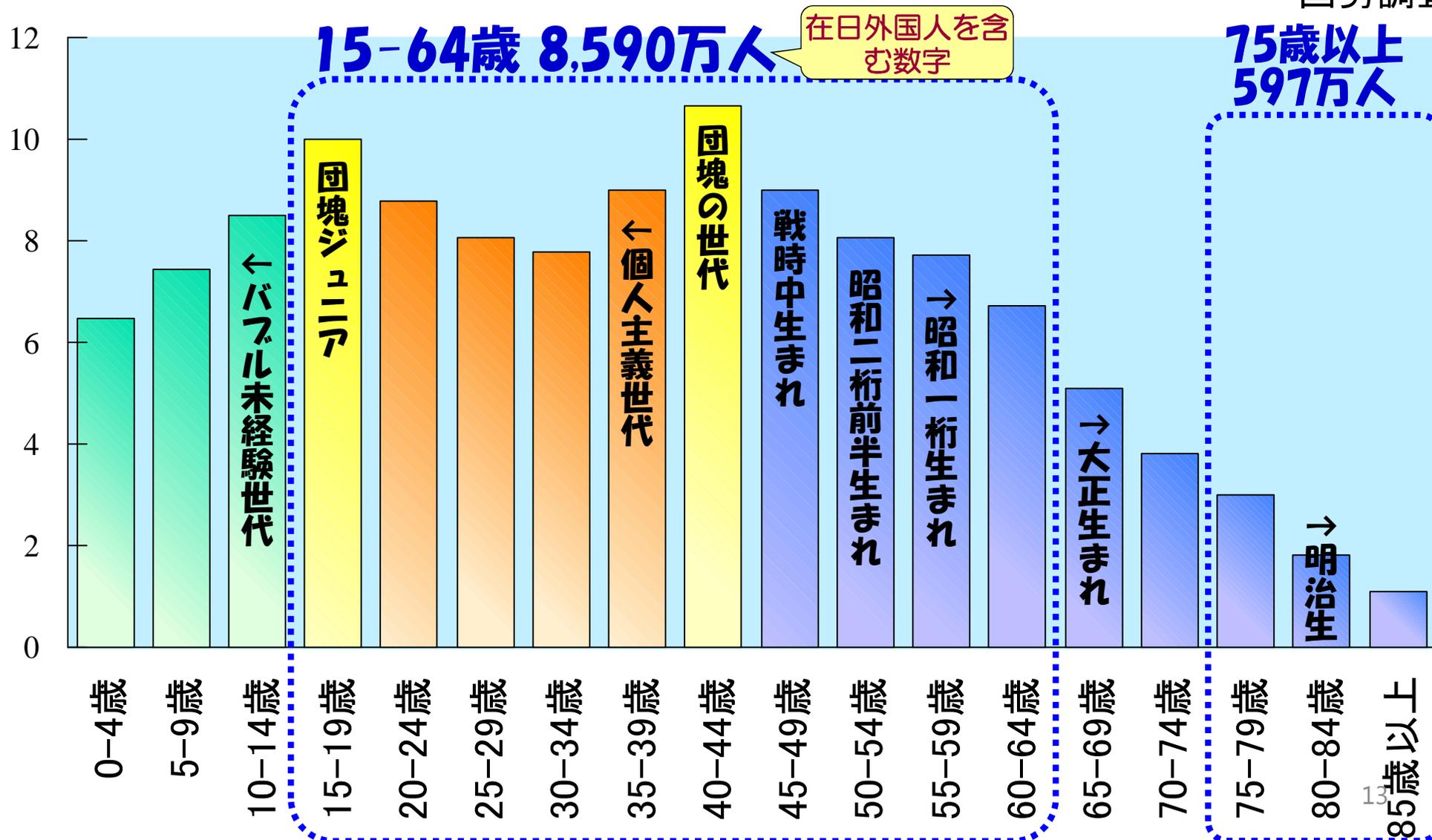
6枚目



何歳の人口が多かったのか：1990 (H2) = 20年前

百万人

国勢調査



阪神大震災の頃

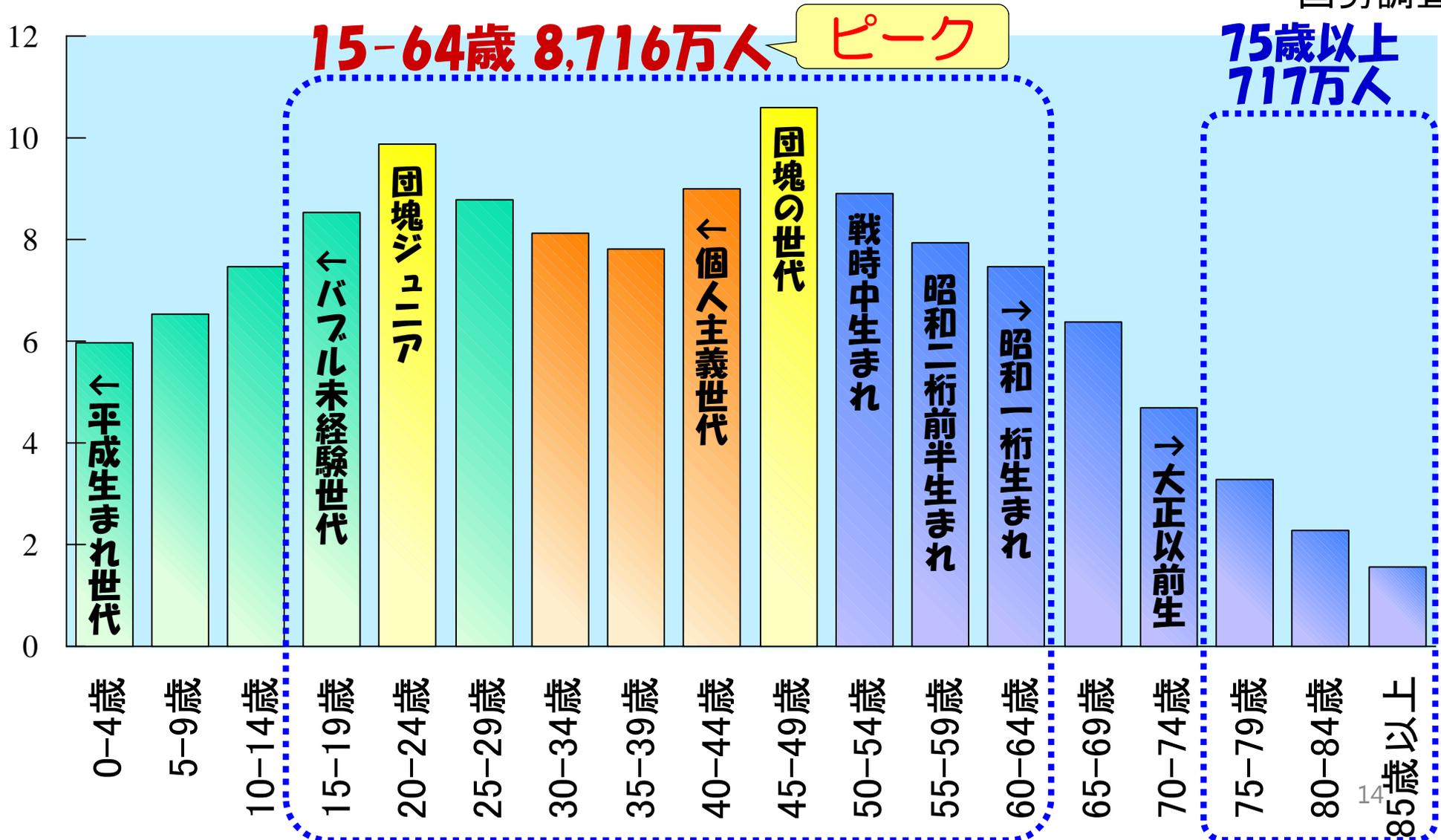
7枚目



何歳の人口が多かったのか：1995 (H7) = 15年前

百万人

国勢調査



2000年問題の頃

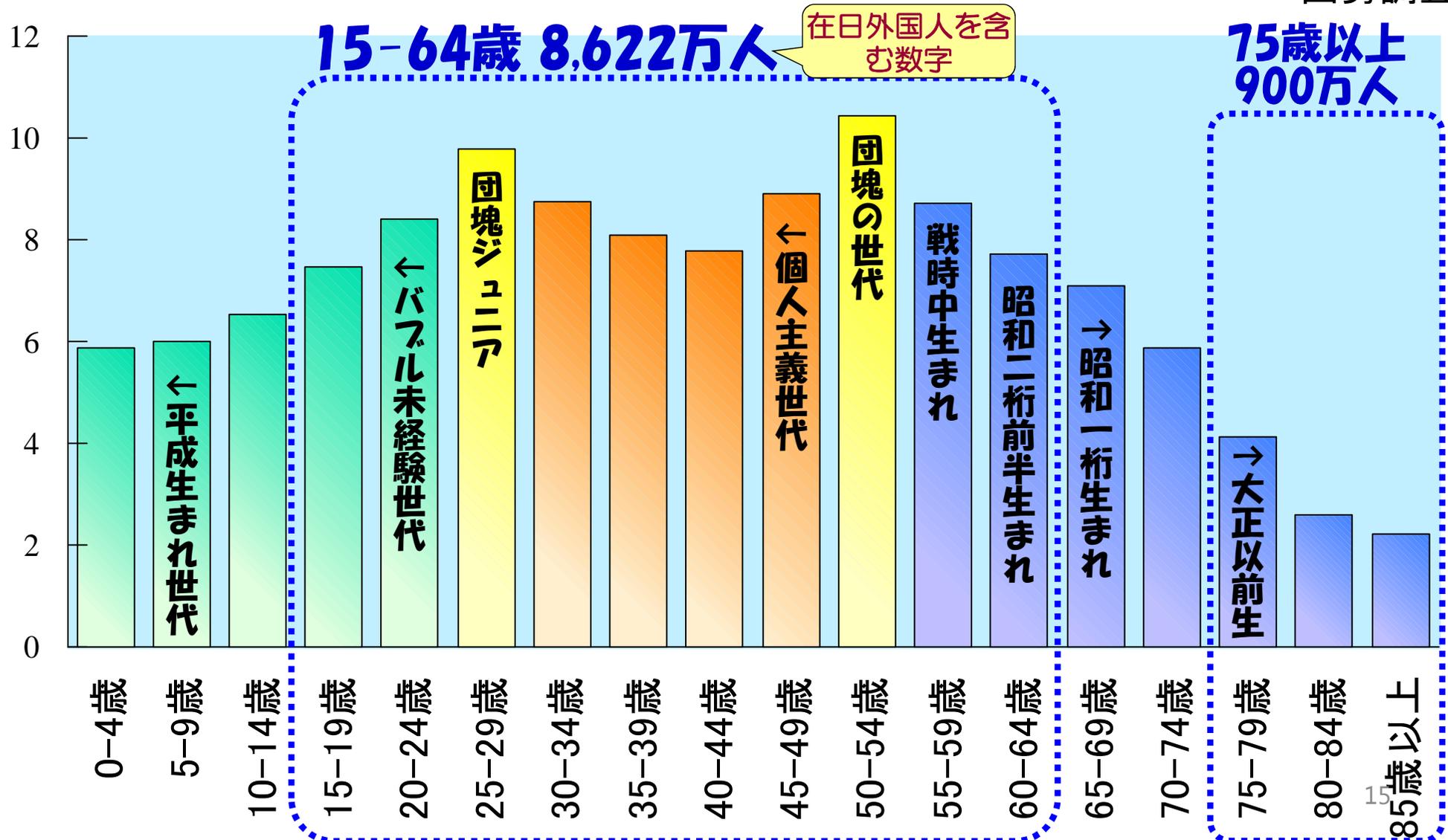
8枚目



何歳の人口が多かったのか：2000 (H12) = 10年前

百万人

国勢調査



現在

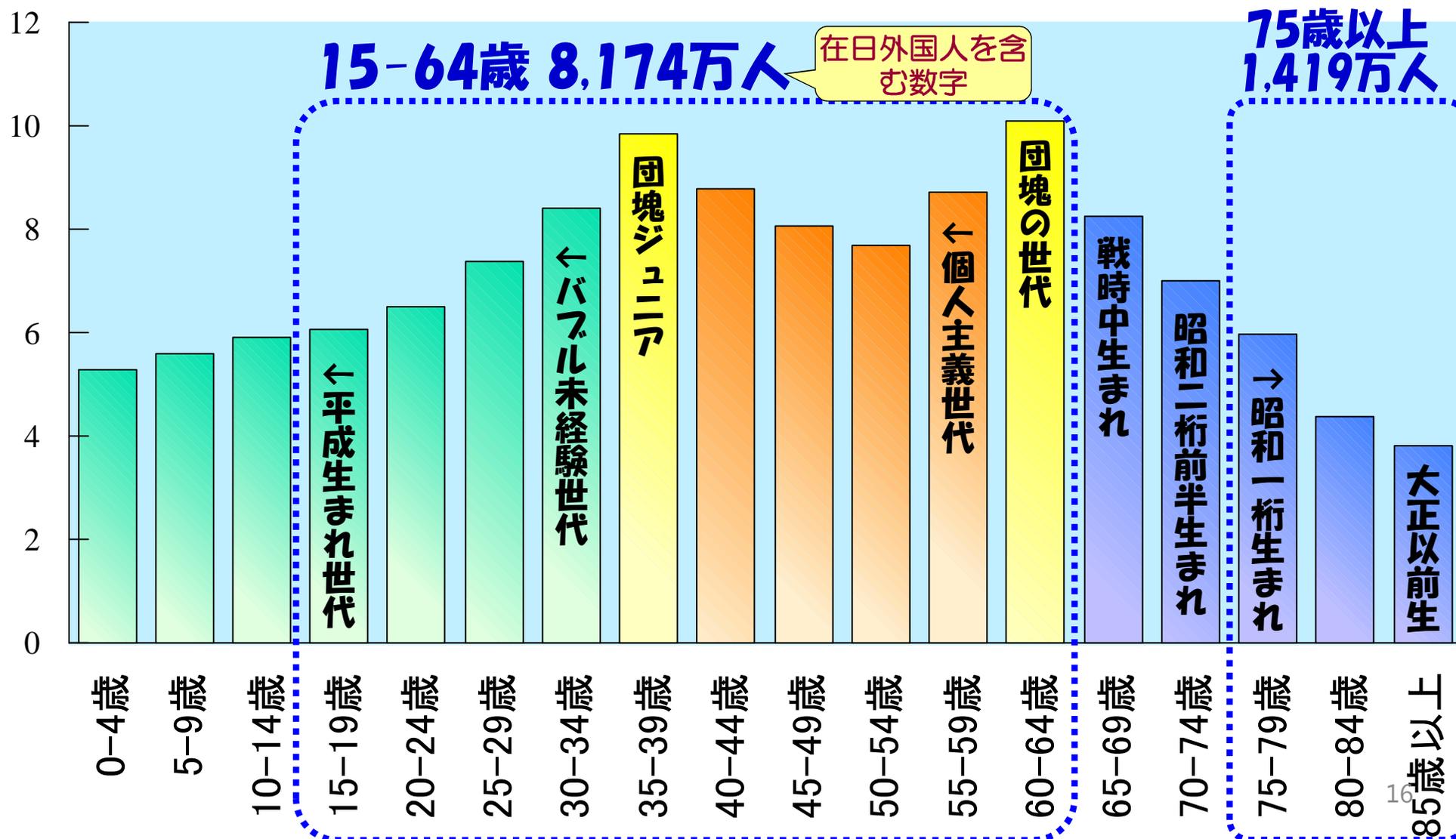
9枚目



何歳の人口が多いのか：2010＝現在

百万人

国勢調査結果を国立社会保障・人口問題研究所が補正



10年後

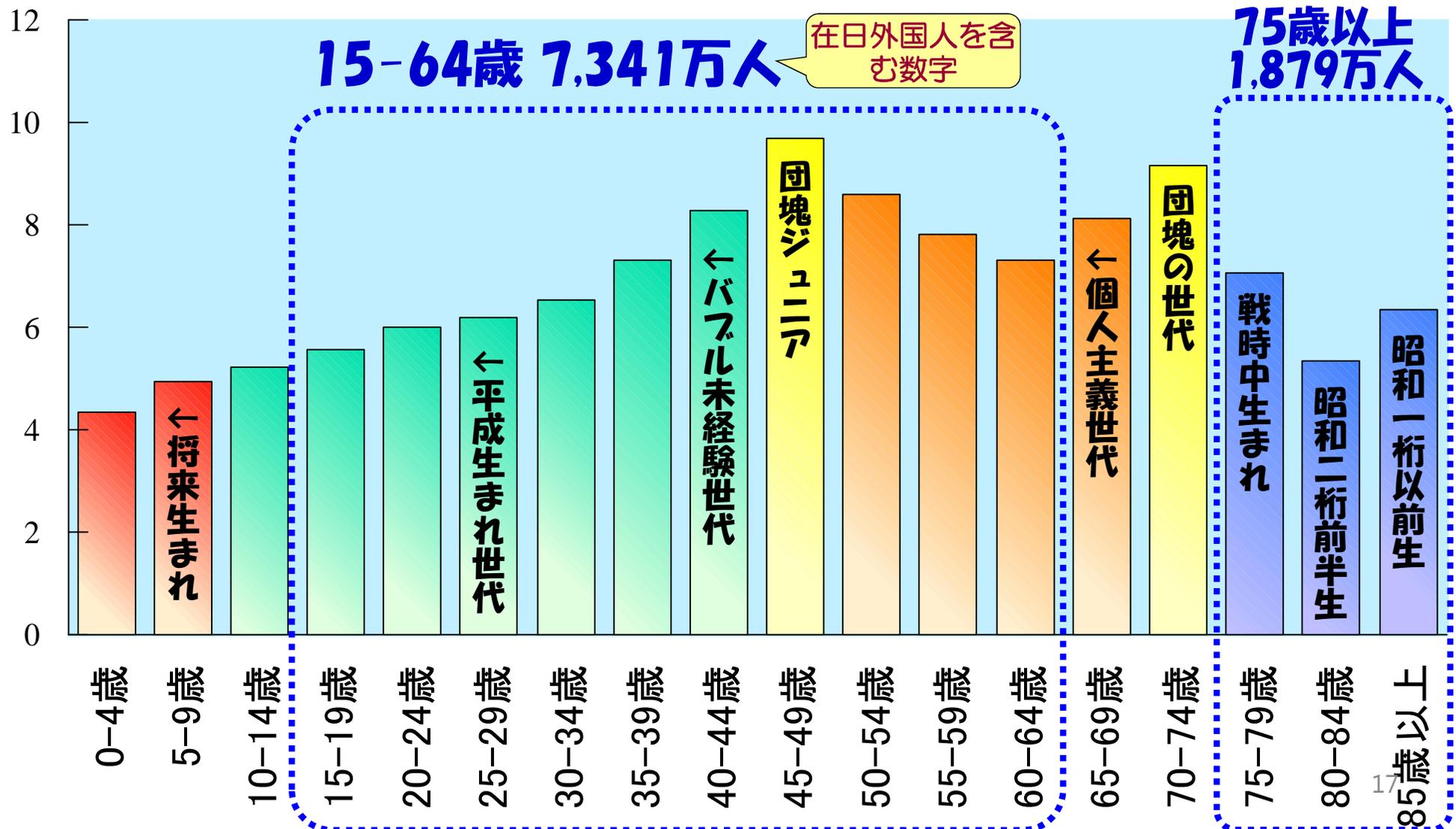
10枚目



何歳の人口が多くなるのか：2020=10年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改訂）



20年後

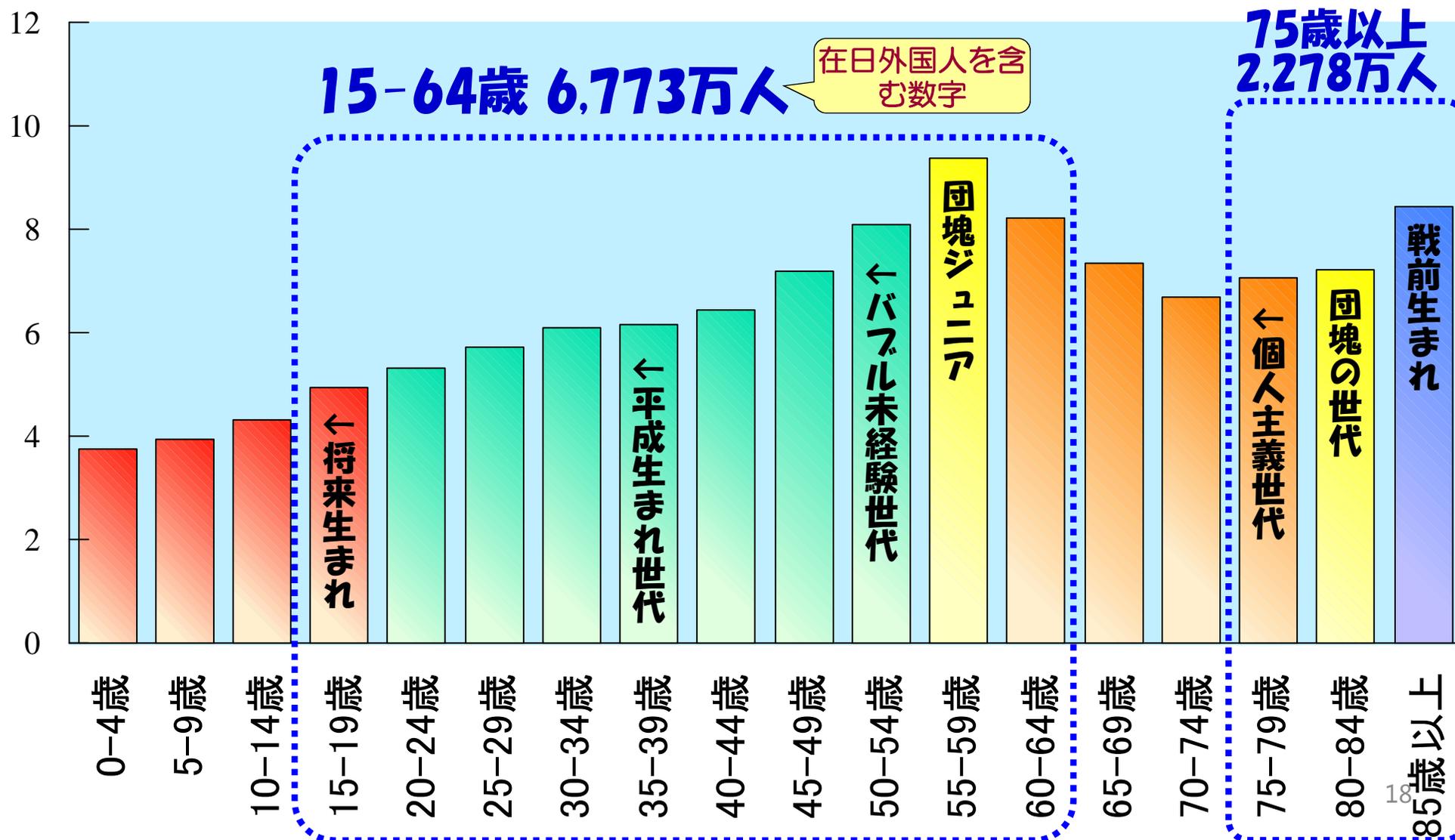
11枚目



何歳の人口が多くなるのか：2030＝20年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改訂）



30年後

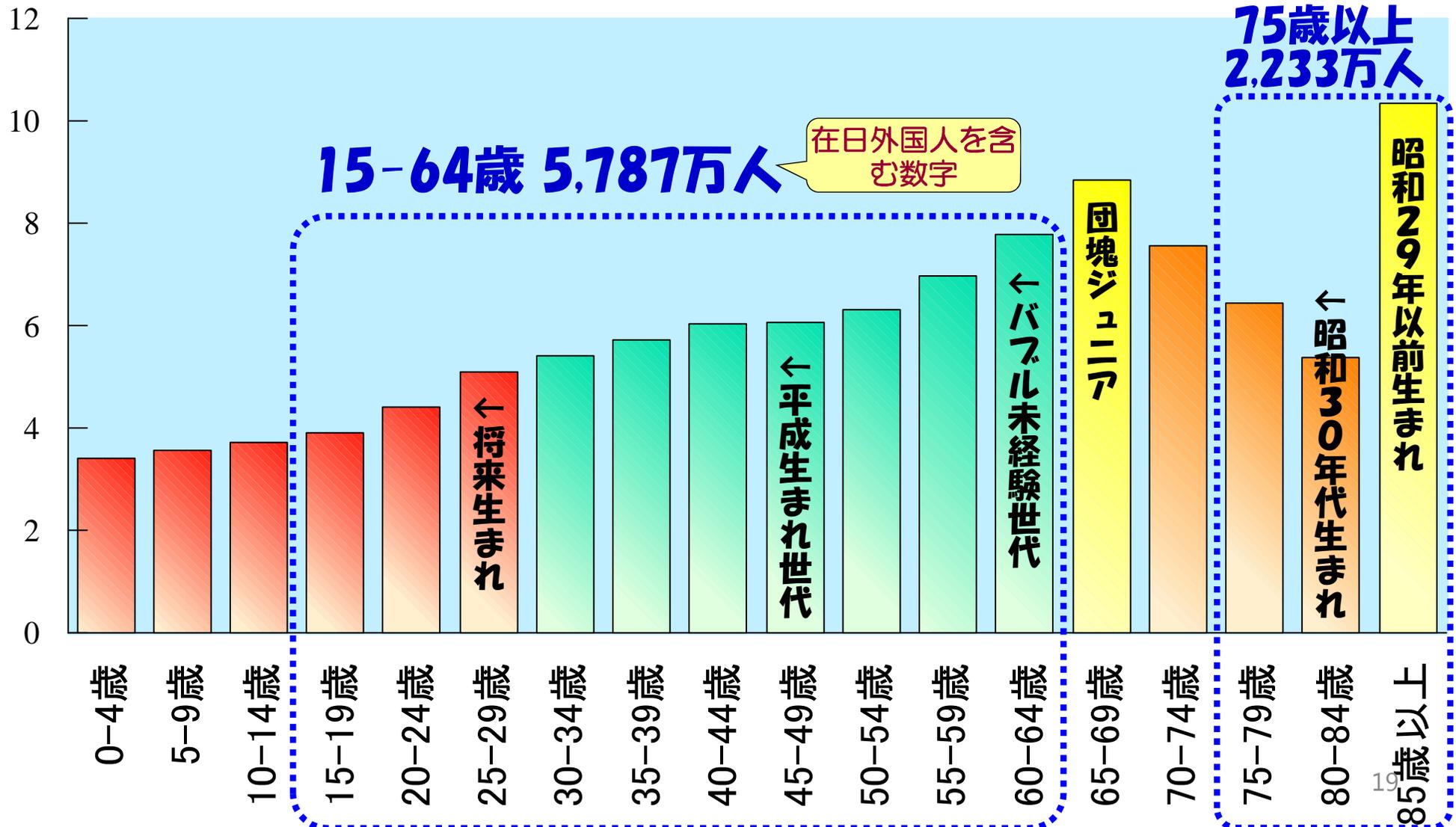
12枚目



何歳の人口が多くなるのか：2040＝30年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改訂）



40年後

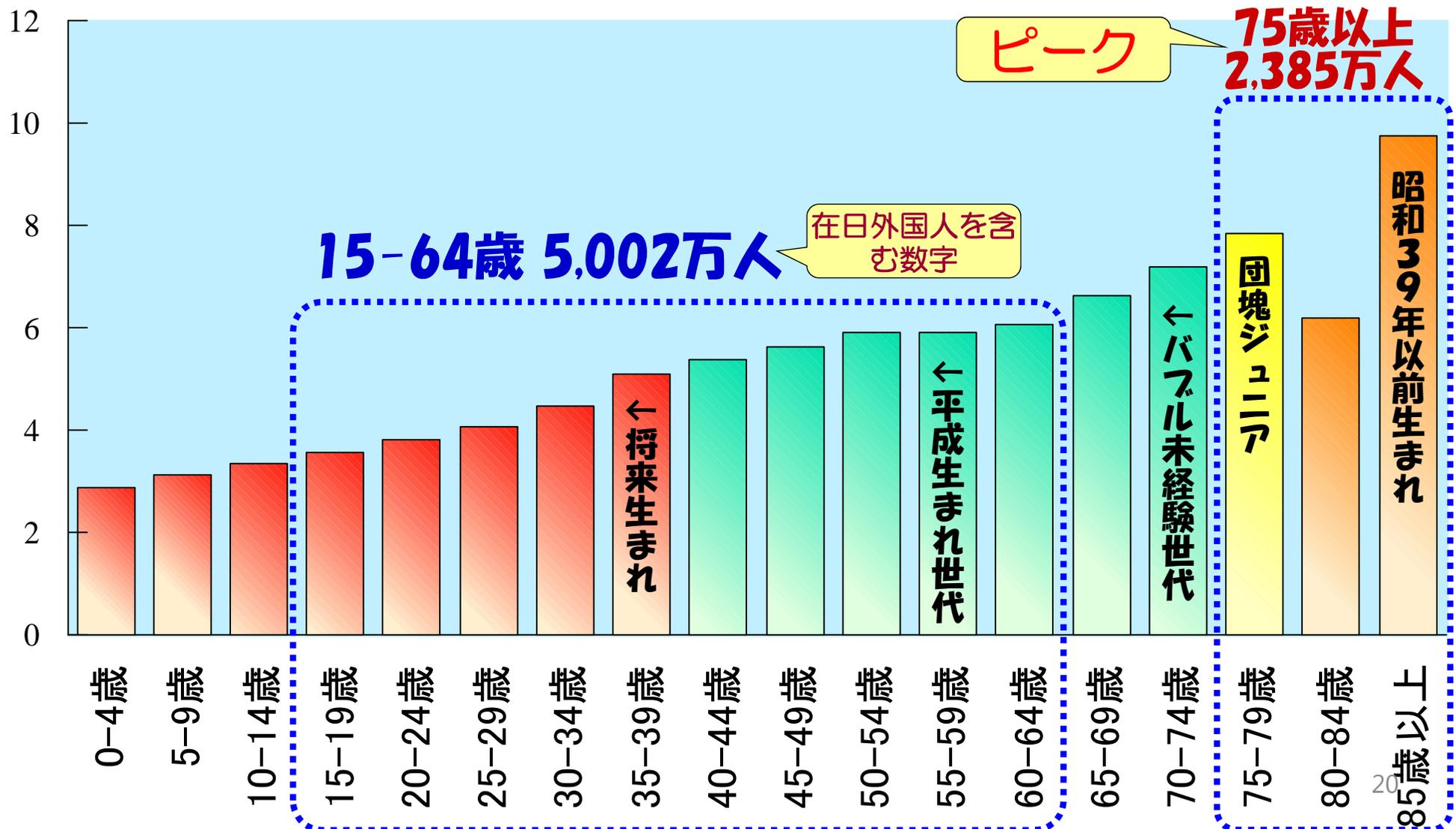
13枚目



何歳の人口が多くなるのか：2050＝40年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改訂）



50年後

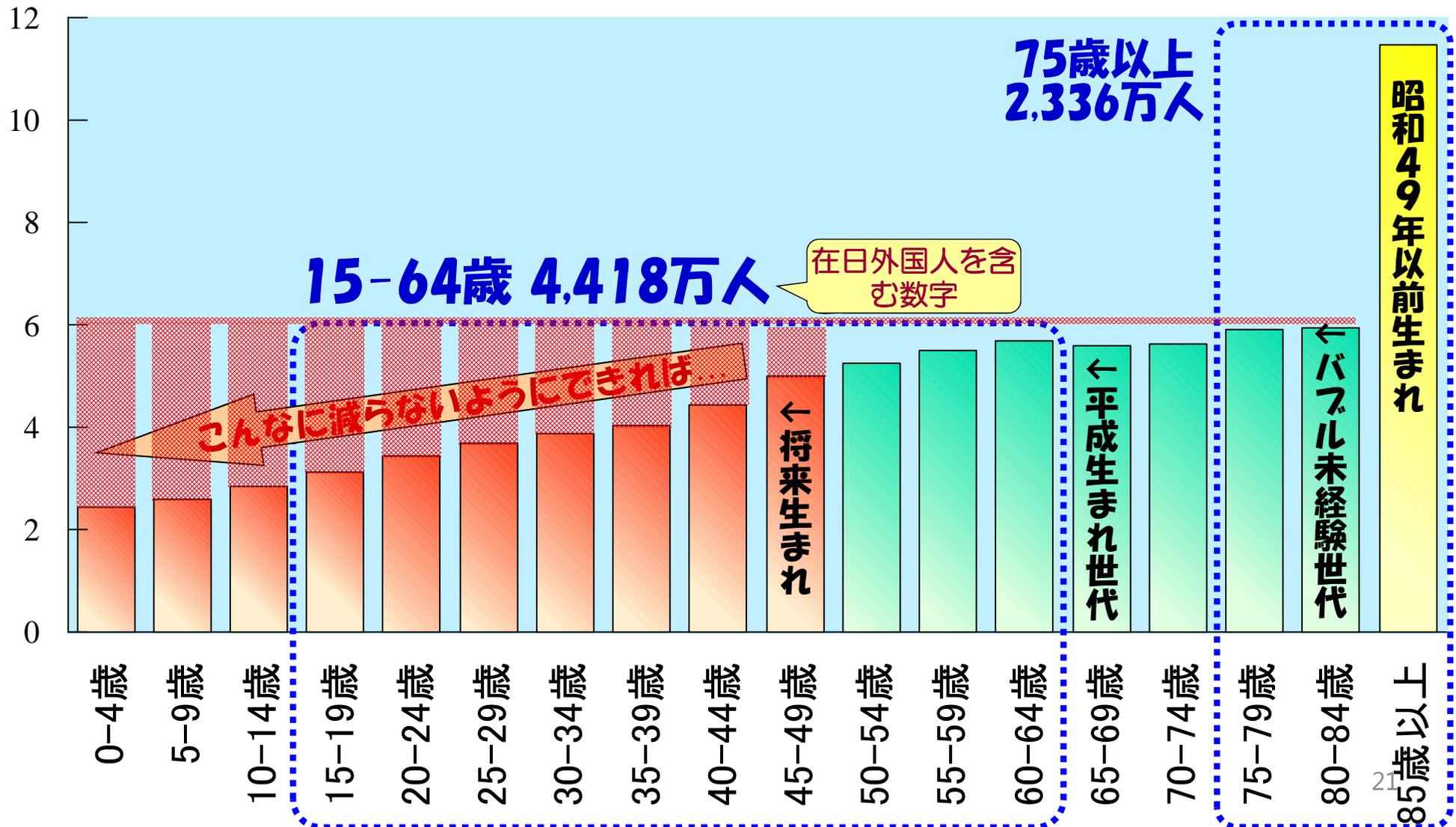
14枚目



何歳の人口が多くなるのか：2060＝50年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改訂）





1. 人口減少の全国的傾向

では、甲賀市の人口はどうなるのか？

人口減少社会と本市の対応について

1. 人口減少の全国的傾向

2. 甲賀市の現況と将来予測

3. 人口減少による課題

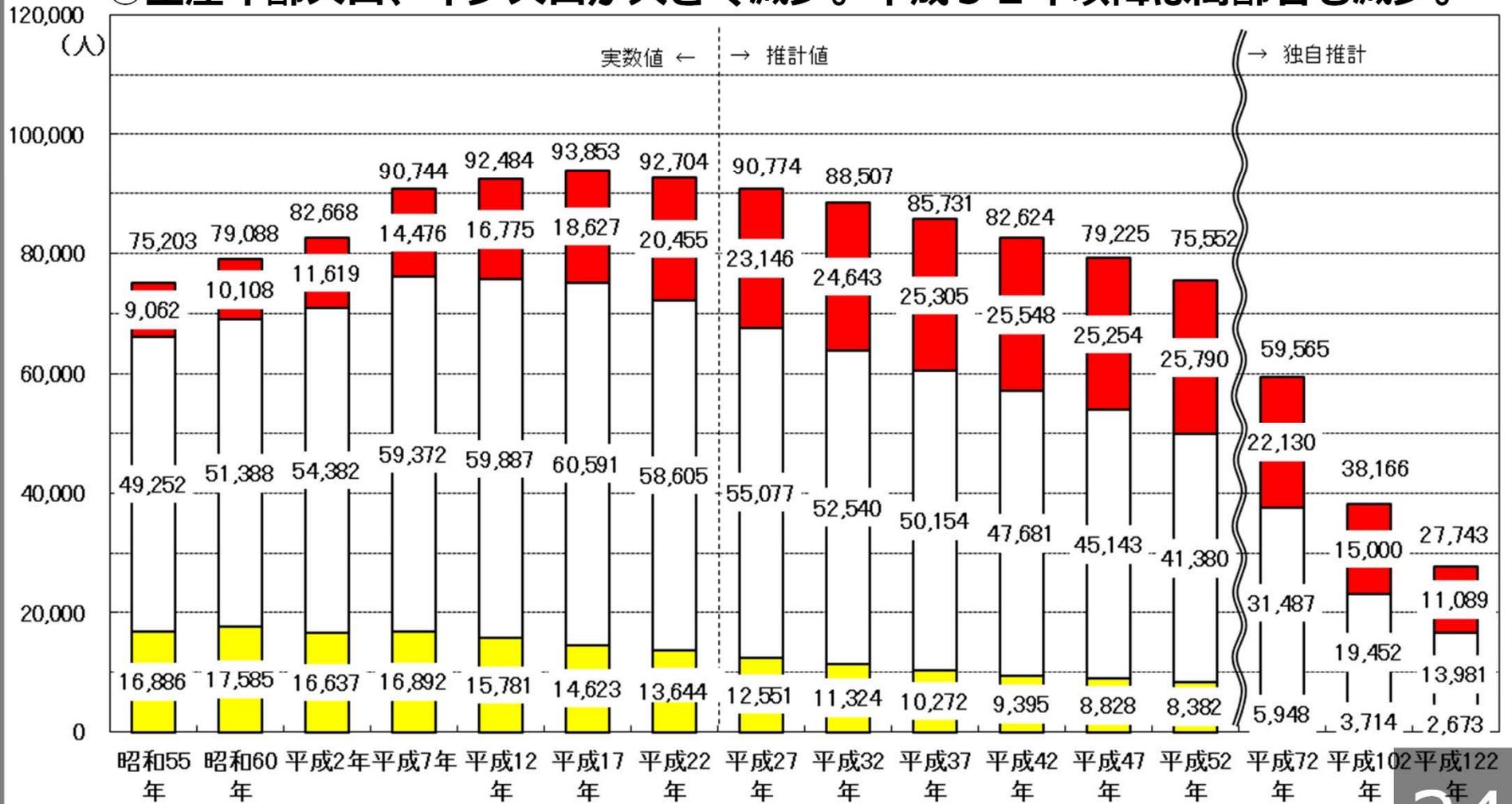
4. その対策は？

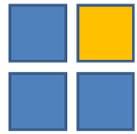


2. 甲賀市の現況と将来予測

総人口と年齢3区分別人口

- 人口総数は平成17年をピークに減少
- 生産年齢人口、年少人口が大きく減少。平成52年以降は高齢者も減少。

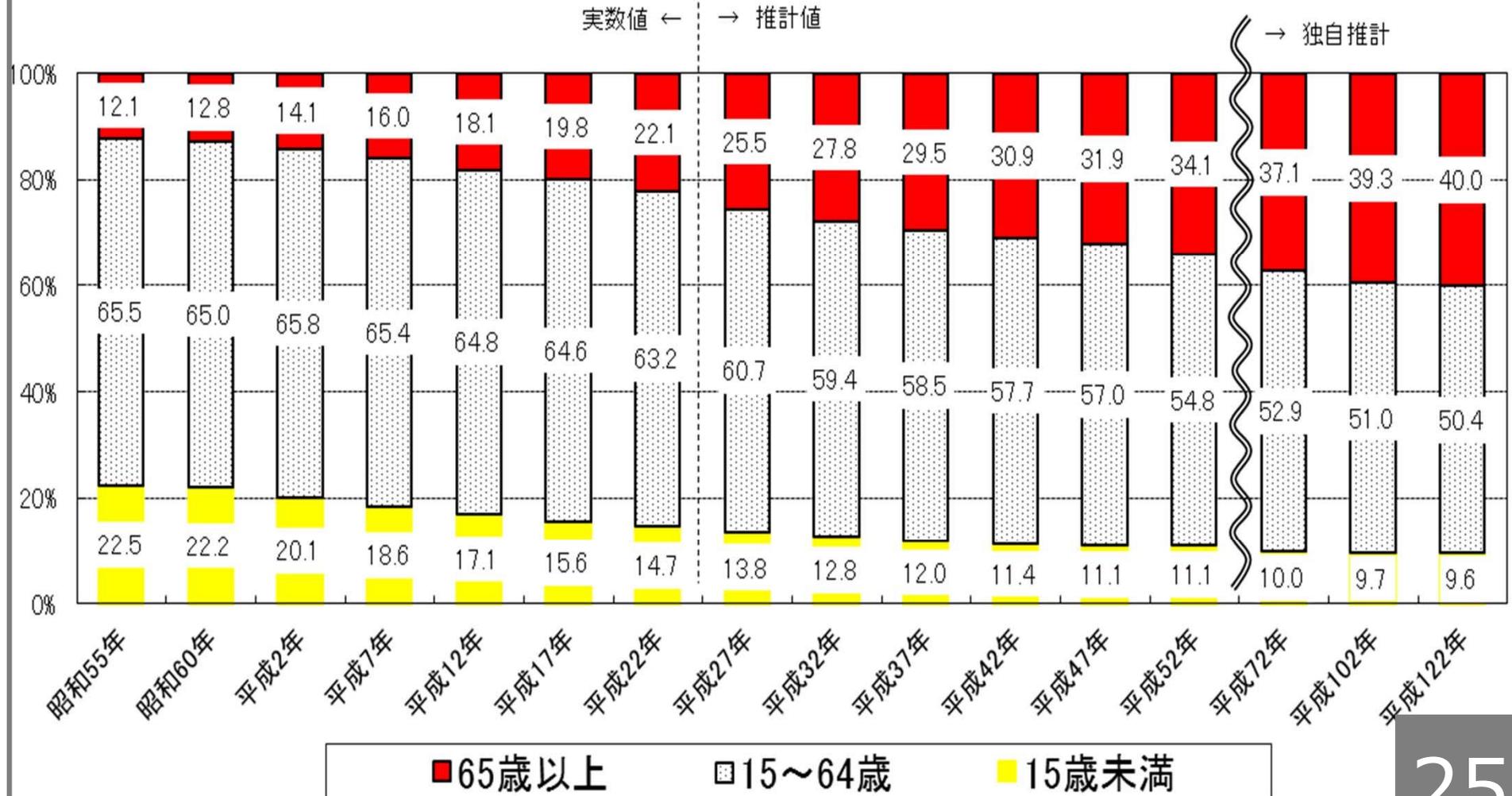




2. 甲賀市の現況と将来予測

年齢3区分別人口割合

- 昭和55年の高齢化率は12.1%であったが、平成22年は22.1%
- 平成52年には、34.1%（推計）

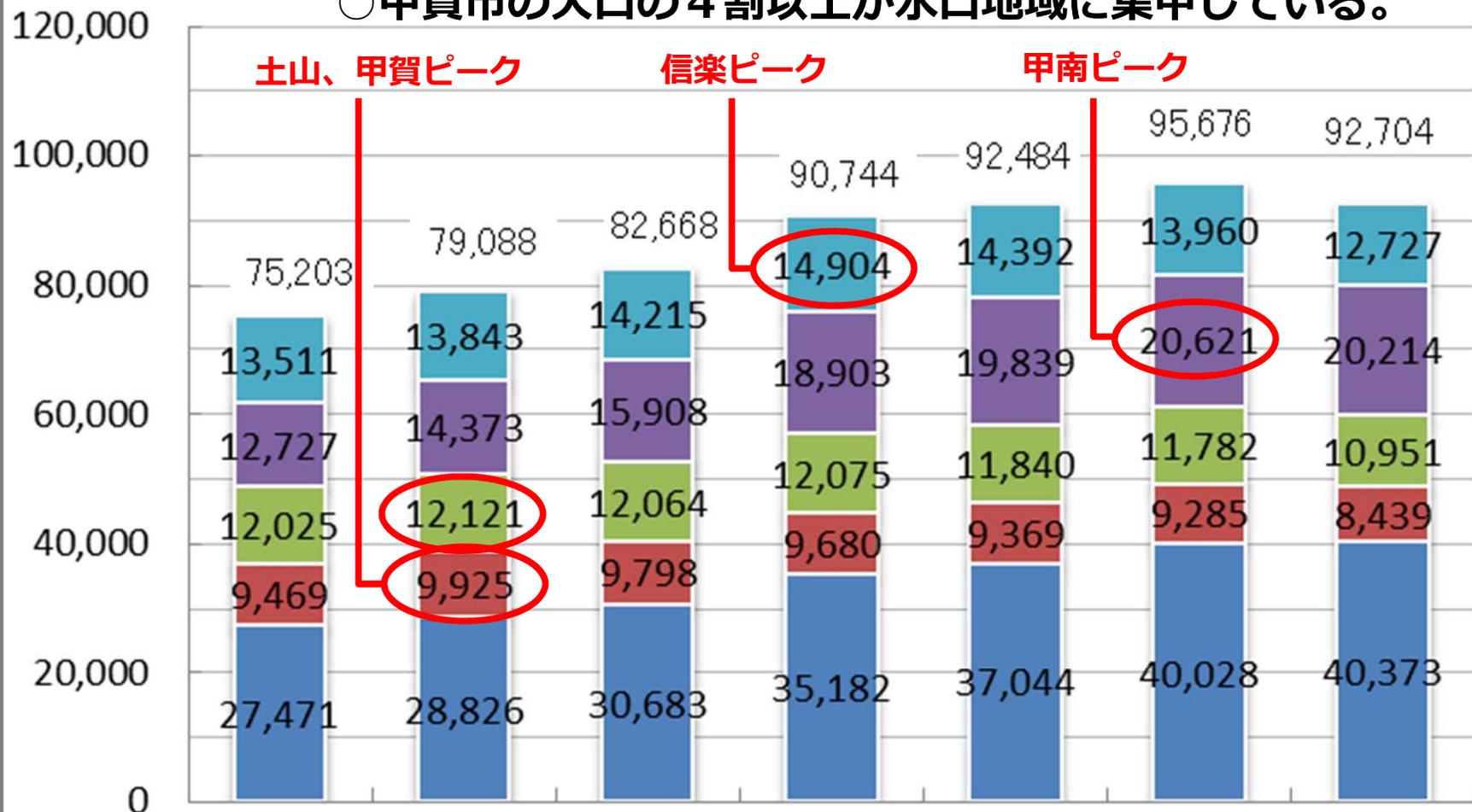




2. 甲賀市の現況と将来予測

地域別人口

○甲賀市の人口の4割以上が水口地域に集中している。



昭和55年 昭和60年 平成2年 平成7年 平成12年 平成17年 平成22年

■ 水口地区 ■ 土山地区 ■ 甲賀地区 ■ 甲南地区 ■ 信楽地区

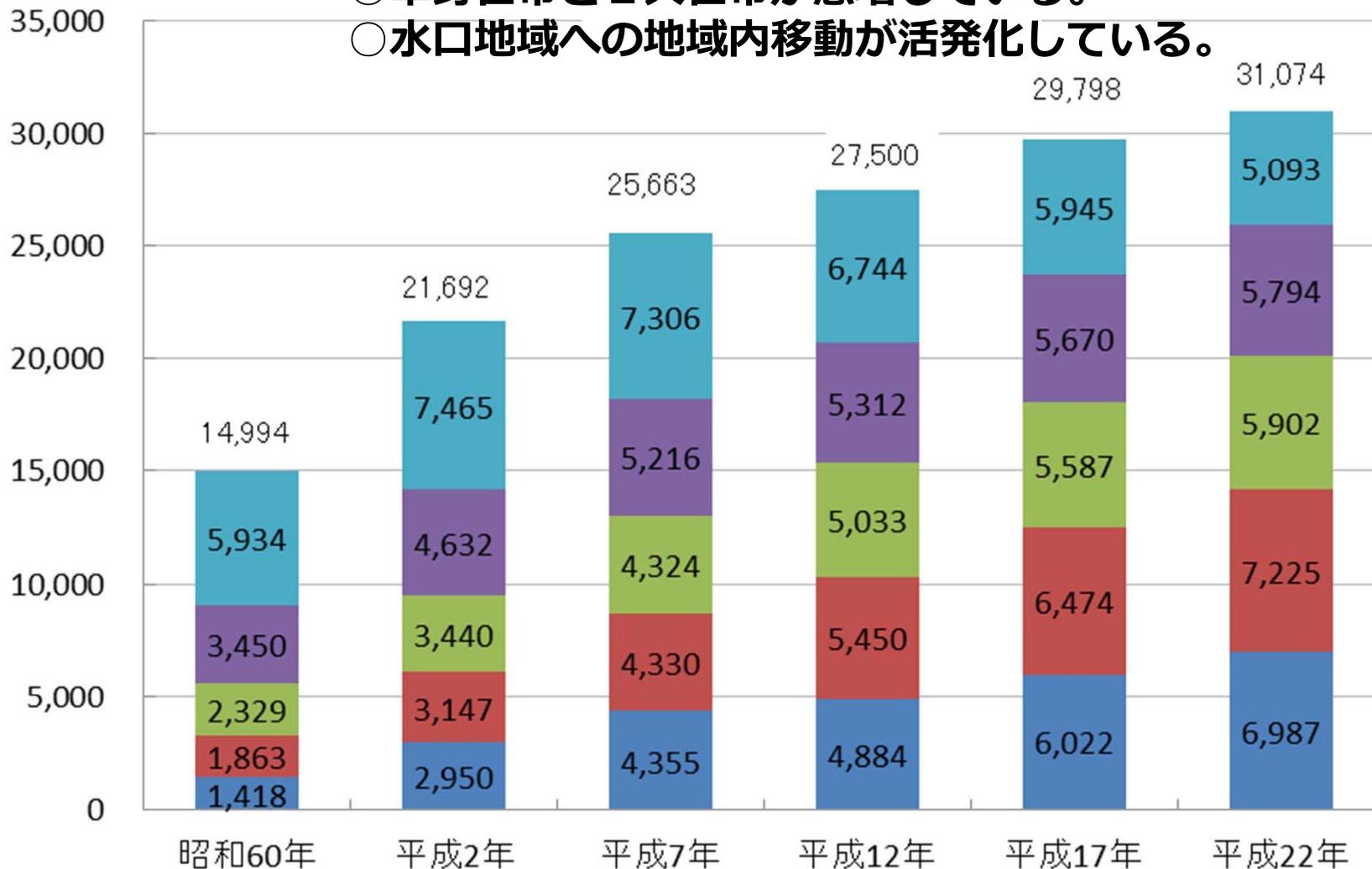


2. 甲賀市の現況と将来予測

世帯数

- 単身世帯と2人世帯が急増している。
- 水口地域への地域内移動が活発化している。

(世帯)



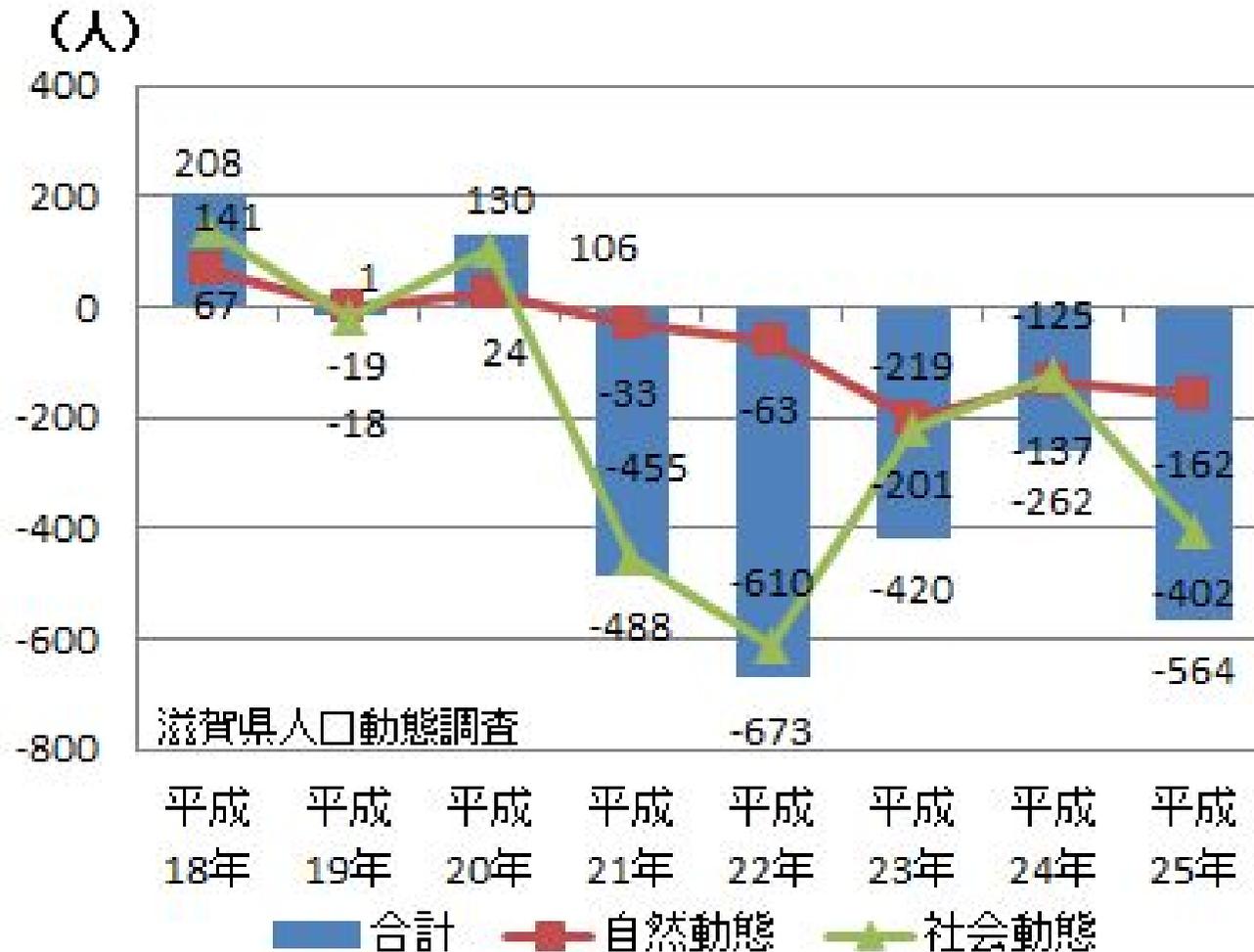
■ 5人以上 ■ 4人 ■ 3人 ■ 2人 ■ 1人



2. 甲賀市の現況と将来予測

人口動態

- 平成20年以降、社会動態人口が減少し、全体の人口を減少させている。
 - 自然減が進み、社会減が回復してきたが、平成25年に再び大きく減少
- ※住基人口における動態であり、国勢調査人口とは差がある。

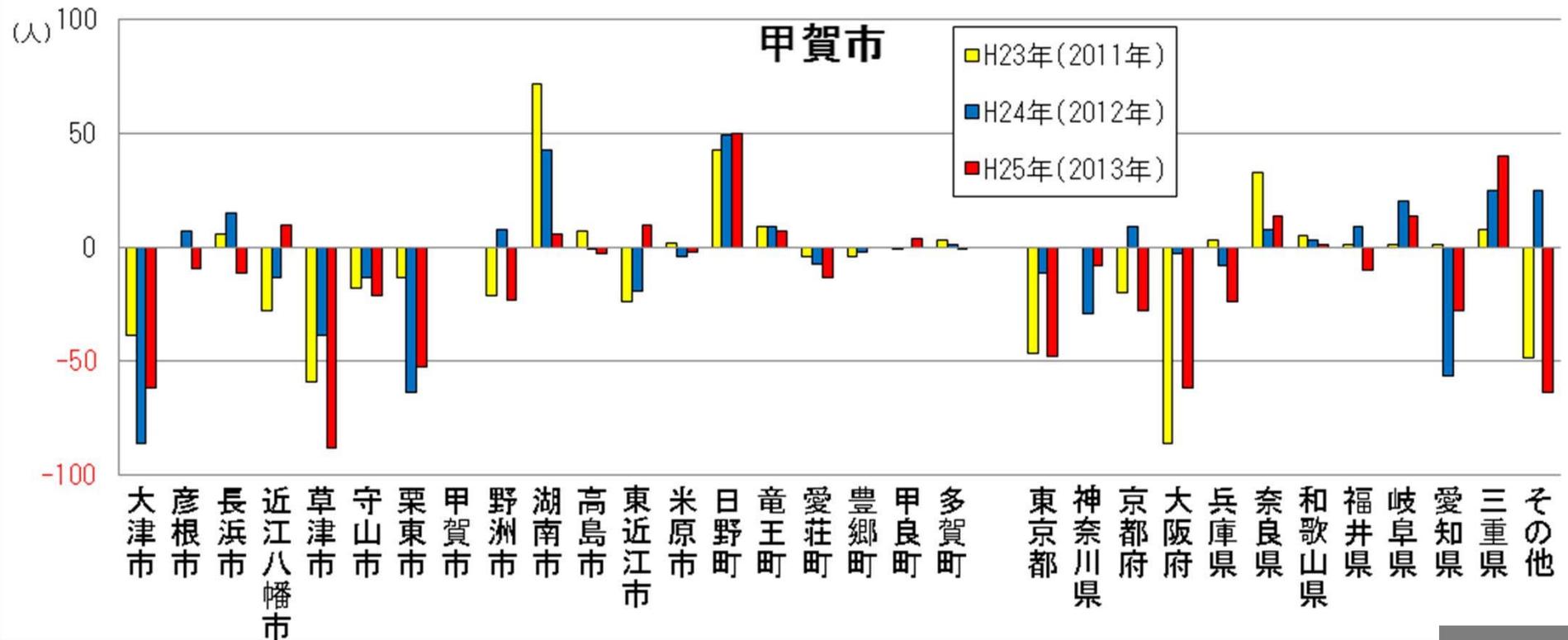




2. 甲賀市の現況と将来予測

人口移動の状況

- 転入は湖南市、日野町からが多い。
- 転出は大津市、草津市、栗東市などJR琵琶湖線沿線への移動が多い。
- 東京、大阪への移動が県内の市町と比べて多い。



— 第1回 総合計画審議会 —

人口減少社会と本市の対応について

1. 人口減少の全国的傾向

2. 甲賀市の現況と将来予測

3. 人口減少による課題

4. その対策は？



3. 課題と対策

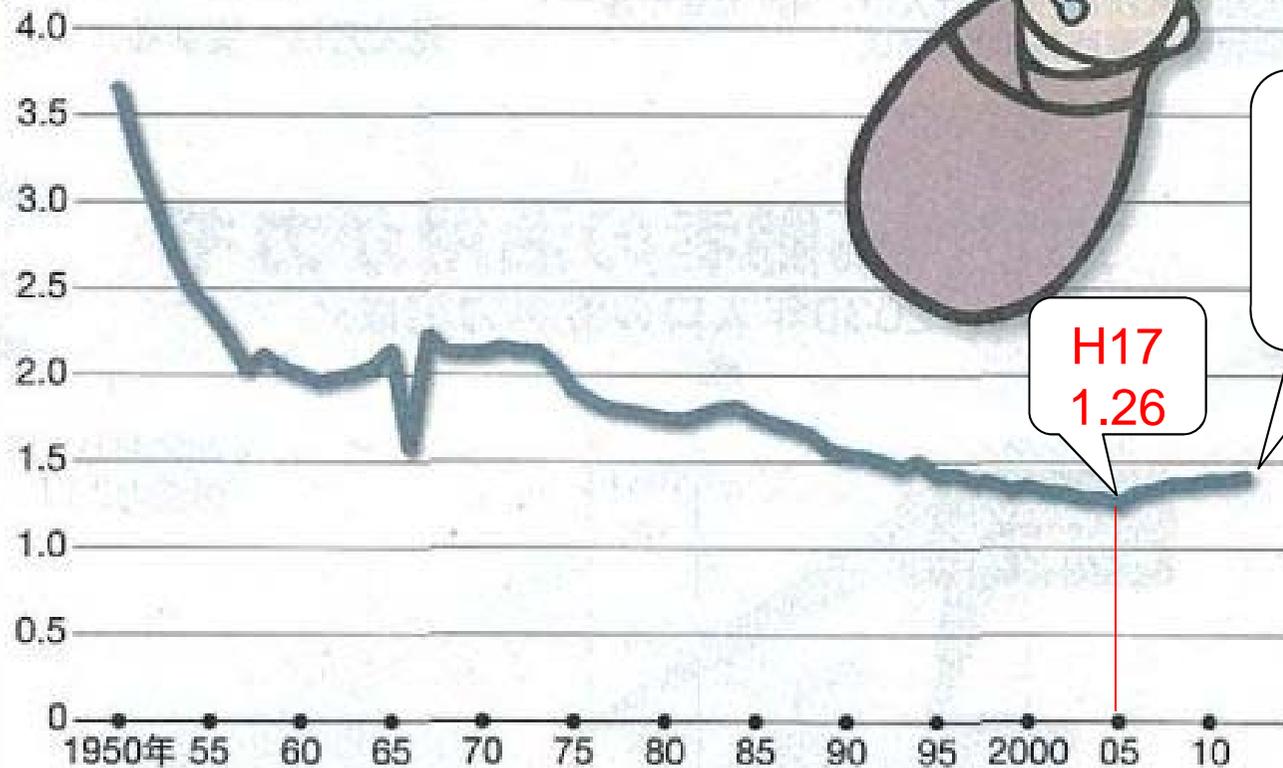
人口減少・超高齢社会における課題

- 生産力・消費の衰退による経済活力の低下
- 金融資産の死蔵（お金が廻らない）
- 社会福祉費用の増大
- 介護、医療従事者の不足
- 農山村地域の過疎化の進展(集落機能の低下・崩壊)
- 担い手不足による耕作放棄地の増加、森林の荒廃化
(水源涵養機能の低下)
- 地域コミュニティの希薄化、弱体化
- 高齢単身世帯者の見守りの問題
(病気時の介護、孤独死など)
- 社会資本の適切な管理が困難



3. 課題と対策

出生率は底を打った —合計特殊出生率の推移—



H25
国1.31
県1.45
市1.43

H17
1.26

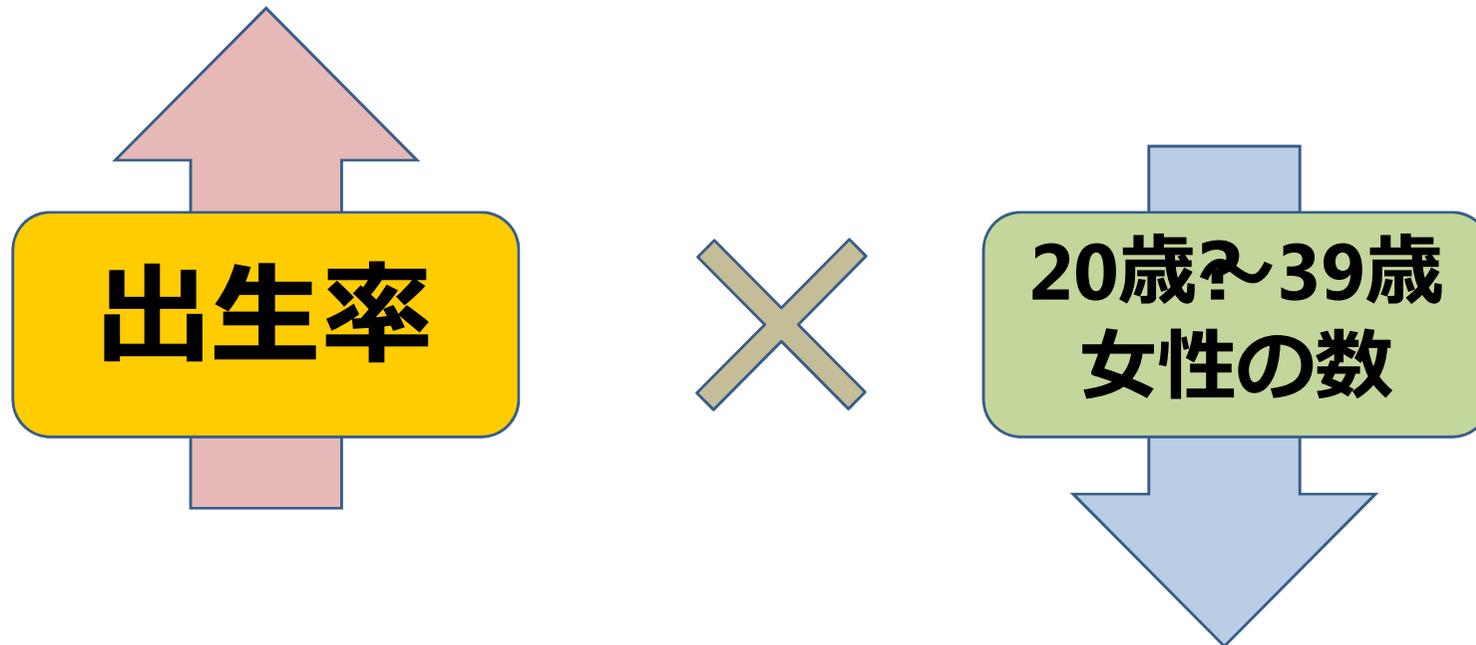
(注) 1947～72年は沖縄県を含まない (出所) 国立社会保障・人口問題研究所



3. 課題と対策

女性の数が減っていく。

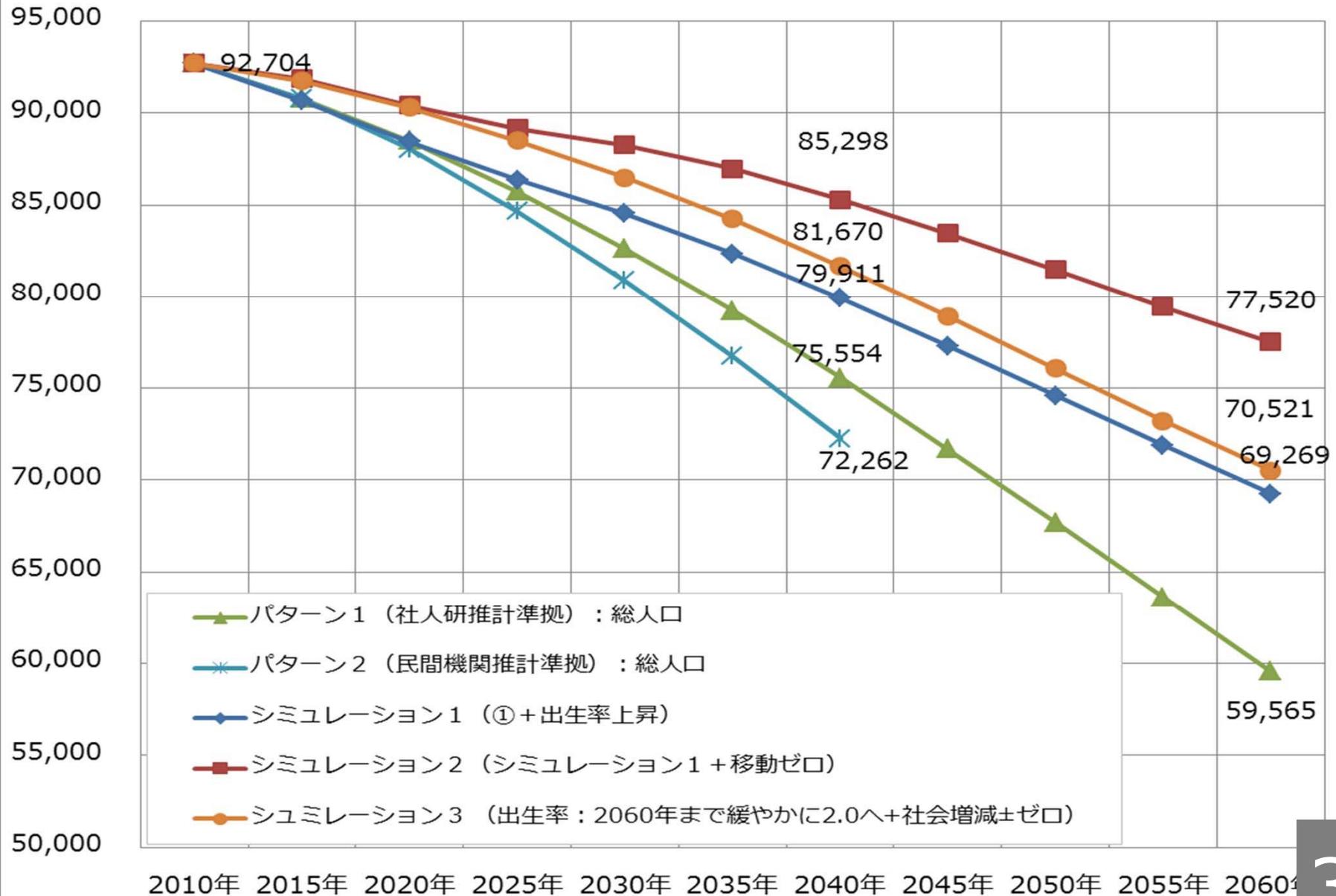
— 出生率は底を打ったが・・・ —



- 出生率が改善しても子どもの数は即座に増えない。
- 20歳から39歳女性の数は団塊ジュニアをピークに減少する。
- 人口対策は長期戦。



3. 課題と対策



人口減少社会と本市の対応について

1. 人口減少の全国的傾向

2. 甲賀市の現況と将来予測

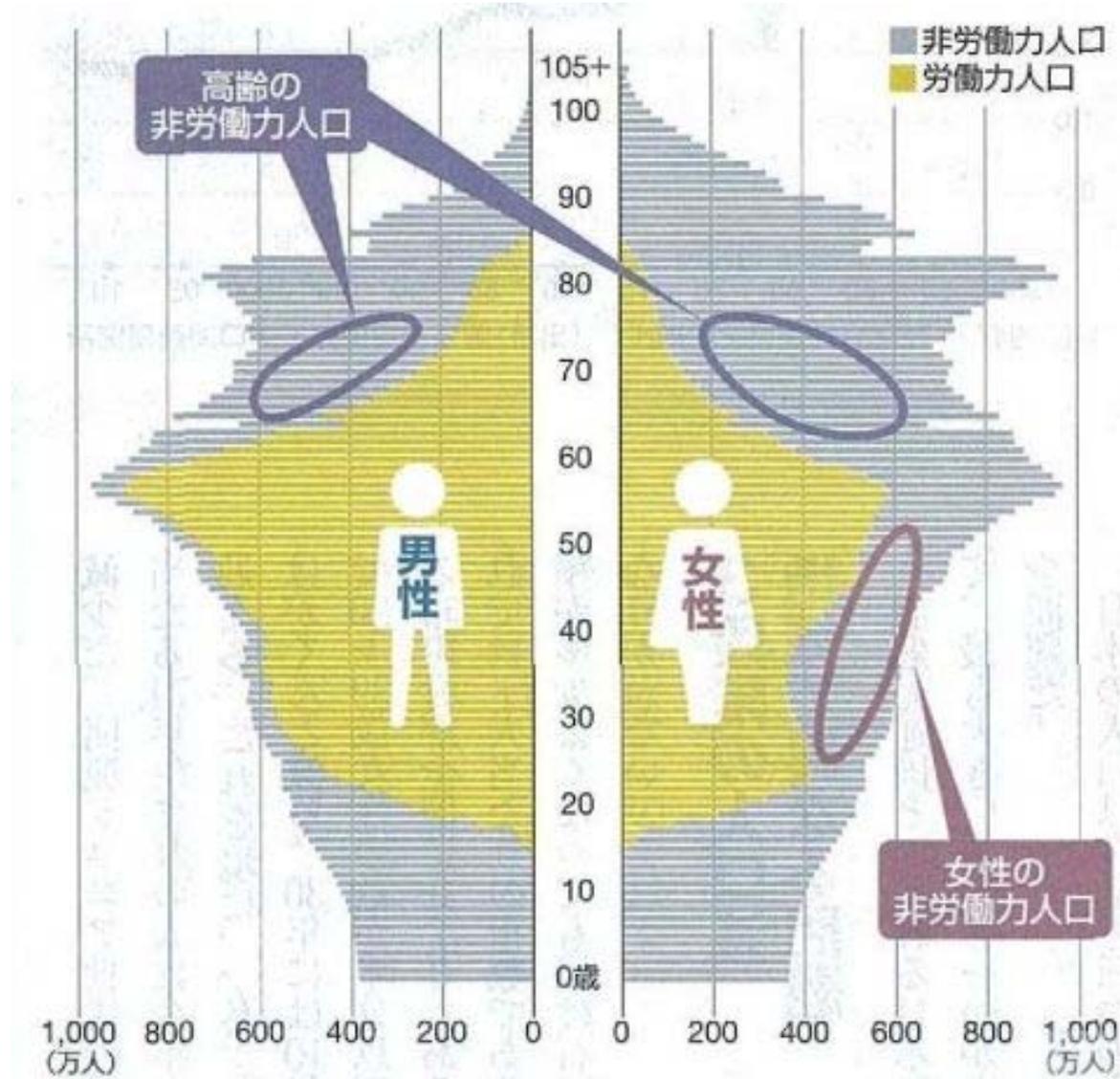
3. 人口減少による課題

4. その対策は？



4. その対策は？

女性、高齢者の活躍がカギ





4. その対策は？

“人口減少”に立ち向かうためにできること

- × **止められないこと（どう頑張っても無理です）**
 - **今の市民が毎年1歳ずつ歳を取っていくこと**
 - **高齢者が激増し、現役世代が減っていくこと**

- △ **止められること（今から頑張れば何とかなるかも）**
 - **出生率の低下はやり方次第で止められる**
 - **学校を卒業した若者が就職時に出て行ってしまうことも、やり方次第で止められる**

- **むしろ前向きにできること（必ずできる）**
 - **子育てしながら働く若い世代を呼び込める**
 - **健康寿命を延ばして天寿を全うする高齢者を増やせる**
 - **来訪・滞在・短期定住する交流人口を増やせる**



4. その対策は？



元気なこうかを創る！ 甲賀の國づくりプロジェクト会議

- 持続的な自治体経営において、最大の課題となる将来の急激な人口減少問題に対し、期間を限定した即効性のある施策を集中的に実施。
- 部局間の緊密な連携により施策に横串を入れ、迅速な意思決定と戦略的な事業展開を図り、部局横断施策の効果を最大限に発揮。

中堅職員以下を中心とした6つのプロジェクトチーム

少子化
対策

定住
促進

女性の
活躍

2025年
問題

選ばれる
まちづくり

持続可能な
自治体経営



甲賀の國^{くに}づくりプロジェクト

おいろうか

平成26年度から実施する事業

甲賀市総合戦略策定 13,000千円(うち一般財源3,000千円)

国が示す地域経済ビックデータ(産業・人口・観光など)を活用した客観的な分析に基づき、市の人口動態と将来の展望を提示する「甲賀市人口ビジョン」を策定します。また人口ビジョンに基づき、今後5か年の目標や施策の基本的方向をまとめた「甲賀市総合戦略」を策定します。

UIJターン助成 12,020千円(うち一般財源3,200千円)

市内への移住希望者に対する移住関連情報の提供や相談支援の一元的な窓口を設置します。また、「地域おこし協力隊」との連携や居住場所となる空き家などの住居実態調査を行うなど、移住する上での不安や懸念を検討、解決するしくみをつくります。

- 移住定住促進事業



地域しごと支援 2,600千円(うち一般財源700千円)

市内の企業と連携し、魅力ある雇用を創出するとともに、若者定着に向けた取組等を進めます。また、女性の採用を積極的に進める企業を支援するなど、若い世代が大学等の入学時と卒業時に都市部へ流出している流れを抑止し、市内企業への就労を促進します。

- 雇用機会の創出と就労支援
- 市内企業の魅力発信

創業支援・販路開拓 12,000千円(うち一般財源3,000千円)

新たなビジネスモデルや雇用を創出するため、地域密着型企業の立ち上げや第二創業支援、地域外需要を取込む可能性を秘めた市内の中堅・中小企業等を支援し、国内外展開・販路開拓等の支援を行うことで、地域経済の引き上げを図ります。

- ふるさと創業支援事業
- 世界(都市圏)に向けた販路開拓支援
- 持続可能な自治体経営事業



担当:政策推進課 電話0748-65-0670



甲賀の^{くに}國づくりプロジェクト

かいこうか

観光振興

31,835千円(うち一般財源7,500千円)

「忍者」コンテンツを最大限に活かし、市内独自の観光資源や産業遺産などを磨き上げ、テーマ性・ストーリー性を持った魅力度の高い観光地域づくりを行います。また、都市部や外国からの観光客が、不便を感じずに市内を周遊・滞在できる広域観光周遊ルートの形成や国内外への発信力を強化するために「エキスパート人材」の育成を図ります。

- 「忍者」を活かした観光戦略
- 観光協会のエキスパート化
- 水口岡山城発信事業
- 魅力アップ事業



少子化対策

5,918千円(うち一般財源1,473千円)

結婚を希望する独身の男女を支援し、子ども・子育て支援をさらに拡充するために、「病児保育」の可能性を調査するモデル事業を行います。また、妊娠・出産、子育てへのニーズと職場・地域における女性の活躍を支援するための調査を行い、女性の就業支援、保育環境の拡充に向けて取り組みます。

- 結婚プロジェクト事業
- 病児保育モデル事業
- 女性が輝く環境ニーズ調査



多世代交流・多機能型ワンストップ拠点(小さな拠点) 2,300千円(うち一般財源800千円)

急激な人口減少により医療や福祉、教育、買物など市民生活に必要なサービス機能の提供に支障が生じています。さらに「小規模多機能自治」の取組を進めるため、持続可能な生活支援サービスの構築に向けてモデル地域を支援します。また、エネルギーの地産地消と域内経済を高めるための取組を支援します。

- 地域の“持続可能性”追及モデル事業
- 木の駅プロジェクト支援事業



担当: 政策推進課 電話0748-65-0670

40



甲賀の^{くに}國づくりプロジェクト

あいらつか

プレミアム付地域商品券

83,017千円(うち一般財源20,817千円)

地元消費の拡大、地域経済の活性化を図るため、地域振興に貢献する商店等において共通して使用できるプレミアム商品券を発行します。

まるごとカタログギフト

22,500千円(うち一般財源2,000千円)

市内の名物商品・観光資源の知名度の向上と消費喚起を図るため、カタログギフトを販売します。

住宅リフォーム助成

54,483千円(うち一般財源27,183千円)

住宅リフォームの施工費用の一部を商品券で助成することで、地域の消費拡大につなげ地域経済の循環を促します。

平成27年度に実施する事業

(仮称)子育て総合支援センター整備事業

18,000千円(うち一般財源18,000千円)

子ども・子育て支援を行うワンストップ拠点を鹿深夢の森内に整備し、妊娠から出産、子育てまで切れ目のない支援を行います。

“選ばれる”まちのあり方検討事業

7,000千円(うち一般財源7,000千円)

少子高齢化に対応した持続可能な「多核連携都市」を実現するため、「中心市街地」と「小さな拠点」の役割を明確にした都市計画のあり方を検討します。



担当:政策推進課 電話0748-65-0670



最後に・・・

